

予 算 要 求 資 料

令和 7 年度 3 月補正予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産研究費

事業名 ボーノブラウン改良推進事業費（R 8 分）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

畜産研究所 養豚・養鶏研究部 電話番号：0575-22-3165

E-mail：c24509@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 15,695 千円 （現計予算額： 0 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	15,695	1,750	0	0	12,370	0	0	0	1,575
決定額	15,695	1,750	0	0	12,370	0	0	0	1,575

2 要 求 内 容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

平成21年度、県畜産研究所は豚肉の霜降り割合を高める遺伝的能力をもつ種豚「ボーノブラウン」を開発した。本種豚は、生産性の向上、特徴のある豚肉の生産等に寄与する育種改良を行いつつ県内養豚農家にて生体種豚及び人工授精用精液で販売供給し幅広く利用され、「ボーノポーク」などの豚肉ブランドを支えてきた。

しかし平成30年度、研究所で豚熱が発生。全ての豚が殺処分となり、種豚「ボーノブラウン」の供給は停止した。幸いにも、豚熱発生以前に県内養豚農場に譲渡した種豚が生存していたため、これを基に種豚の再造成を行った（種豚再造成事業 R1～R6）。

種豚の再造成の過程で、国等の研究機関との共同研究により豚ウイルス病に対する抵抗性と関連するDNA領域を特定しEIR（エイル）と名付け特許出願（特2021-065096）し、加えて細菌感染に対する抵抗性および感受性の判別方法を特許出願（特願2024-052189）した。

これまで種豚の育種改良は、試験研究課題により改良形質毎（発育等の経済形質、肉質および抗病性能）に行ってきたが、豚肉の産地間競争が激化する中、肉質で差別を図ることが出来るボーノブラウンに県内養豚農家の期待は大きいため、事業化により一元化した育種改良が急務である。よって新たに本事業によりボーノブラウンの育種改良と種豚（人工授精用精液を含む）供給を行い、養豚農家の経営安定を図る。

（２）事業内容

① 種豚の改良増殖

- ・県内養豚農家の生産性を向上させる一日平均増体重、ロース芯の大きさ、背脂肪厚、飼料要求率（体重1kg増加させるために必要な飼料量）および抗病性能（ウイルス・細菌感染）と消費者が嗜好する肉質（霜降り割合）改良を一元化して行う。

② 高能力種豚（精液）の供給

- ・本事業により改良した種豚（人工授精用精液）を県内養豚農家へ販売供給する。

③ 遺伝資源保存

- ・豚熱のみならず、アフリカ豚熱、口蹄疫の国内侵入リスクも高まっているため、精液及び受精卵の凍結保存によりボーノブラウンの遺伝資源保存に取り組む。

（３）県負担・補助率の考え方

該当なし

（４）類似事業の有無

飛騨牛改良事業費

飛騨牛産肉能力検定事業費

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
消耗品費	1,128	ボーノブラウン改良増殖・種豚の供給・遺伝資源保存
飼料費	4,553	種雄豚及び種雌豚の飼料費
役務費	3,806	出荷手数料・豚登記手数料など
委託料	3,500	ボーノブラウン改良増殖（ゲノム育種価算出による改良）
原材料費	505	精液希釈剤
備品購入費	2,203	ボーノブラウン改良増殖（帝王切開による遺伝資源及び譲渡精液数計測器の導入）
合計	15,695	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ

ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和８年３月策定予定）

（基本方針２） 潜在力をフル活用した生産強化

１ 農畜産物の供給力強化

①品目特性に応じた生産性向上

２ 魅力ある農畜水産物づくり

②新たなブランド品目の創出・発展

（基本方針４） 安心できる農畜水産業と農村の環境整備

４ 生産を脅かすリスクへの対応

①家畜伝染病に対応できる畜産産地づくり

本事業は以上の計画達成に該当する。

（２）国・他県の状況

デュロック種豚を生産し供給する試験研究機関等は、国内に６カ所ある。しかしその多くが発育や肉質を改良対象としているが、抗病性を高めたデュロック種豚の改良を行い、養豚農家へ供給している試験研究機関はない。また当所が国等と連携して開発している抗病性能の判別を行うDNA解析方法については、「豚のウイルス抵抗性の判別方法、およびその利用（特願2021-065096）」として令和7年3月7日に特許査定を受けた。

（３）後年度の財政負担

該当なし

（４）事業主体及びその妥当性

種豚の改良と供給を一括して行う機関は畜産研究所以外にない。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 種豚「ポーノブラウン」を令和10年度までに30頭に増頭し、県内養豚農家に優良な種豚と人工授精用精液を供給し、安全でおいしい県内産豚肉の安定供給を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R4)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
① ポーノブラウン造成頭数	10		10	20	30	
② 精液譲渡本数	176		600	1200	1800	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	
令和5年度	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和6年度	※令和7年度新規事業 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	県内養豚農家への種豚「ボーノブラウン」の人工授精用精液譲渡本数は、令和4年度が176本であったが、令和5年度が1,563本、令和6年度が1,714本であり高い需要がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	ボーノブラウンの造成は計画どおり進捗し、県内養豚農家への精液譲渡本数は目標を上回る供給が達成されている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	研究成果により特許取得し、効率的な育種改良が行われている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 種豚「ボーノブラウン」の改良や種豚譲渡に携わる研究員の確保と育成が急務である。

(次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県産豚肉の生産性を高めながら品質での差別化を行うため、最新の育種改良システム(ゲノム育種価推定とDNA解析による改良)を導入して対応する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	<div> <div></div> <div>【〇〇課】</div> </div>